

人文社会科学部 国際学術講演会

日時：2019年8月2日（金）10:30 – 12:10

場所：岩手大学 総合教育研究棟（教育系） E25教室

講師：鈴木恵里 准教授

（ボルドー・モンテーニュ大学日本学科）

演題：教育界におけるグローバリゼーションの影響と
複言語主義の実態：ヨーロッパと日本のケース

対象：教職員、学生、一般（入場無料、事前申込不要）

主催：岩手大学人文社会科学部「多文化共生のための日仏中共同研究」

問合せ：中里まき子（岩手大学人文社会科学部）

講演要旨

ヨーロッパ連合(EU)が拡大するに連れて加盟国間の均衡を保つことが重要な課題となり、欧州評議会(Conseil de l'Europe)は加盟国各国の言語・文化を尊重すべく「複言語・複文化主義 (Plurilinguisme/pluriculturalisme)」を打ち出し、2001年に「欧州共通参照枠(CEFR)」として発表した。その当時テクノロジーの急激な発達のおかげで人や物がたやすく移動できるようになったため、他言語・他文化に対する人々の関心が高まって行くだろうと期待されていた。つまり、複言語・複文化主義を全世界に広げて行くには持ってこいの状況だと考えられていた。

このような状況は数年間続いたものの、グローバリゼーションが全世界に広がって行くに従い複数の言語・文化の尊重どころか、英語至上主義がはびこるようになったのである。このような傾向がヨーロッパ内の教育界、そして日本国内にどのような問題を引き起こしているのか、そしてこれらの問題に各国がどのように取り組んでいるのかを紹介し、今後言語・文化教育分野の研究者としてどのような対策を打ち出して行くべきなのかを考えたいと思う。